社会福祉法人友愛学園
広報誌　　VOL28
発行日　平成29年3月27日
発行人　社会福祉法人　友愛学園
〒198-0001　東京都青梅市成木2-107
電　話　0428-74-5453
ＦＡＸ　0428-74-6906
http://www.yuaigakuen.or.jp/

創立六十周年を迎えるにあたって

理事長　柘植吉治

◎ここ二年ほどの間に、友愛学園が辿ってきた道のりが本年で六十年にわたることを何度かこの欄で述べてきました。当法人の大きな歴史的節目であった五十周年では、創立以来の歴史をさまざまな手法で掘り起こし、その結果を記念誌誌上や同時に開催した記念事業を通じて明らかにしてきました。このことはその後の歩みの中で、いくらかは発展の支えとなったものと自負していますが、反面、その後の今日に至る十年間を振り返ってみるとき、過ぎ去る年月の早さを実感すると同時に、課題をたくさん残した期間でもあったと痛感するものでもあります。

その背景には、なんと言っても措置制度から障害者自立支援法（二〇〇五年交付）による制度、あまり時をおかずして決定された障害者総合支援法（二〇一二年交付）等による急激な制度の変更が大きく影響してきたと思います。そして今年度（二〇一六年度）初頭には、社会福祉法の近年にない大きな改正がなされ、その中では社会福祉法人の経営目的をはじめとして組織形態、財務処理、等々に関する規定が、かつて無いほどの規模で改訂され、それに基づく法人の経営組織の整備に忙殺させられることとなりました。以上のように国における社会福祉の施策が比較的短い期間に変更されてきたことと、こうした制度改革が高齢化が進行する中での社会福祉予算の増加回避という難題のもとで進められたことも加わり、制度改定の意義を分かりづらくし、社会福祉法人の現場では困難な対応を迫られました。先々を見越した事業計画を立案する上でも判断に苦しむ素因となったことも事実であります。

◎さて、このような混沌の中で迎える六十周年でありますが、おめでたいことと浮かれる余裕など無いほどの経営環境であることは明らかではあります。しかし当法人には幾度となくピンチを迎え乗り越えてきた貴重な歴史があります。当然のことながらその経験に学びそれを生かす機会であるとして迎えたいと考えます。

制度の変化にとまどい安易な道筋を求めることなく、いまこそ当法人の独自性を発揮する道を求めるときであろうと考えます。そこでその具体的課題として、まずは現在展開している事業を抜本的に見直し、障害を持った人たちの要望により幅広く、的確に応えて行くことを基本理念とした道筋を再構築する時期に来ていると考えます。特に歴史を重ねてきた友愛学園児童部・成人部事業にそれがより強く求められていると思います。

現在当法人ではここ十数年来、上記二施設に加えて、青梅福祉作業所、はぁとぴあ原宿（渋谷区より運営受託）、青梅市就労支援センター（青梅市より運営受託）、五カ所のグループホームを加えつつ運営してきましたが、上記二施設の今後の道筋を明確にすることで後発の各事業の進むべき道筋も自ずから見えてくるものと期待します。

◎社会福祉の歴史は、洋の東西を問わず民間人のボランタリズム（たすけあいの心）から発祥し発展してきたものと理解していますが、上記のとおり当法人の決して長いとはいえない歴史を辿ってみてもそのことを伺うことができ、ささやかながらも貴重な社会貢献の歴史を積み重ねにしてきたことを知ることができます。

前述のように、長い歴史の中で積み上げられて来た国の福祉制度が揺らぎ始めているともいえる状況の中でこそ、民間精神の発揮を今求められていると思います。友愛学園の六十周年は、そのような決意をもって迎えたいと思います。

十一月三日（木）、今年も好天に恵まれ、さわやかな秋晴れのなか、第四十一回友愛学園祭が開催されました。

地域にお住まいの皆様を始めとし、来賓、ご利用者家族、近隣の福祉施設・作業所関係者など、たくさんの方々のご来場をいただき、盛況のうちに終えることができました。

開会式では、柘植理事長の挨拶の後、青梅市健康福祉部長橋本様、成木二丁目自治会長野島様よりご挨拶をいただきました。

ステージ企画では、成人部及び児童部の利用者さんによるパフォーマンスがあり、練習の成果を発揮できたと思います。

ゲスト出演では、民族楽器を使ったバンド演奏などで会場を盛り上げていただきました。また、毎年トリで登場する神代太鼓は、フィナーレを飾るにふさわしい太鼓演奏でした。

模擬店では、うどんや焼きそばをはじめ、やきとりやアイスクリームまで売り切れが続出するにぎわいとなりました。今年の新メニュー「ワッフル」もご好評いただきました。

バザー売り場は、開演前から行列ができ、早々にほぼ完売状態でした。また、今年は、理事長の提供で「ぎんなん」を、児童部の利用者さんが作成した「ブレスレット」や「二十日大根」を店頭に並べました。こちらもたくさんの方に喜ばれました。毎年、多数の物品を提供していただきありがとうございます。

地域の参加団体、なかま亭からは、赤飯や総菜が、「かもんみーる」からはケーキやクッキーなどが人気でした。

ゲームコーナーも人気で、終始訪れる方が絶えない盛り上がりでした。

全体を通して、各ブースとも好評で、来年も期待していただけるよう準備していきたいと思います。園庭のテーブルでは、利用者さんや家族の方たちが食事をとり、ステージのパフォーマンスを楽しまれていました。

当日、ボランティアしていただいた方たちは約五〇名になり、学生から社会人の方たちまで、多くの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

また、ご来場くださいました方々に感謝申し上げます。

来年度の友愛学園祭も、多数のご来場をお待ちしています。

（成人部主任　島田健史）

はぁとぴあ祭

十月十五日（土）には、秋晴れの天候に恵まれた中、第八回はぁとぴあ祭を開催しました。開会式には、長谷部健区長をはじめ、木村正義区議会議長、都・区議会議員のみなさまにお越しいただき、利用者の代表による開会宣言とテープカットで、利用者やご家族、地域の方々のたくさんの笑顔の中、はぁとぴあ祭がはじまりました。

三階のステージでは、昨年に引き続き、公益社団法人渋谷区法人会第十一千駄ヶ谷・原宿ブロックのご厚意で出演して下さった「さるびあ亭かーこ」さんの紙芝居で、温かい笑いにつつまれながら、午前の部を楽しみました。

お昼時は、地域の民生委員さんの素敵な演奏やコーラスを聴かせていただきました。

午後は、例年恒例の「ミュージックASパレット」のコンサートでは、利用者の方々も一緒になり、普段の日中活動で行っている音楽療法を取り入れながら、歌うことのみではなく、からだを動かすことで身体機能の維持や改善をはかり、コミュニケーションを広げている様子も見ていただきました。

他にも、模擬店では、名物「はぁとぴあ焼き」をはじめ、定番の焼きそばやお寿司、コロッケやフライドポテトなどが販売されました。また、輪投げとヨーヨー釣りのゲームコーナーでは、賑やかに楽しい笑い声が聞こえており、景品をうれしそうに抱えている姿が見られました。はぁとぴあ原宿の販売コーナーでは、麦工房のケーキやクッキーをはじめ、利用者のあたたかみのあるオリジナル作品の販売も行いました。

はぁとぴあ祭開催にあたり、出店していただいた区内の団体、渋谷区の関係機関、利用者の家族やボランティアのみなさま、そして、友愛学園法人本部の方々など、多くの方々のご理解とご協力をいただき心から感謝いたします。次回、第九回のはぁとぴあ祭で、お会いしましょう。

（副所長　渡部光行）

成人部

公益財団法人
中央競馬馬主社会福祉財団様より
助成金をいただきました

助成を受けて車両を購入しましたので、ご報告いたします。

中央競馬馬主社会福祉財団様より助成金をいただくのは、法人全体で五件目です。成人部としては、三年前に車椅子リフトの車をご購入させていただいています。来園の際には、時間をかけて成人部を見学していただき、車の必要性を理解していただけたと思います。

ありがとうございました。

【改修】

成人部設立当初から使用していた「ボイラー」ですが、ソーラーシステムを含めて、居住エリアの大きなスペースを占めていました。それを撤去し、リビングとして改築しました。

今まで暗かった空間が一転、明るく清潔感のある空間へ変わっています。まだソファーやテレビなどは設置していませんが、利用者の方々がくつろいでいただける場になった良いと考えています。

暗くて機械が多くあったボイラー室が見事に明るい部屋に

家具を入れると生活感あふれるリビングになりました。

【桑刈り】

二〇一六年十二月三日、四日の二日間にわたり桑刈りを実施致しました。雨の心配もありましたが、天候も良く、二日間で延べ八十人を超えるボランティアさんにご協力を頂いています。

今年は豊作で、桑の成長が良く、質の良い物がたくさん収穫できました。成人部の利用者さんも張り切って作業していました。

お昼には、カレーやおでん、肉まんなどを用意させていただきました。頑張った後のご飯は格別だと好評でした。夕方からは、食事と飲み物を用意し、慰安会を開かせていただきました。

ボランティアさん同士の会話も弾み、交流が深まったことかと思います。

このようなイベントを盛り上げ、魅力ある活動を地域に発信していけるよう努力していきたいと思います。

「桑刈り」が無事に終え、ご協力くださいました皆様に、感謝申し上げます。

（主任　島田健史）

相談支援事業所 おおぞら

一・生活介護の事業所が足りない

特別支援学校高等部に通う高等部三年生の生徒さん達は、あと数ヶ月で卒業です。高三の計画相談に関わっているケースは十件余あり、就職や作業所の利用が内定してうれしいお知らせが届いているケースが主です。障害特性によっては、まだ進路が決まらず、一月末～二月中旬に実習が予定されている方もあります。

年数回開かれる行政を含めた関係機関が集まる施設連絡会では施設の空き情報などが情報提供されますが、生活介護事業所に空きはなく、青梅市内の事業所はどこも定員の百％を超えた利用率になっています。昨年・一昨年、青梅、日の出、福生などで生活介護事業所が新規開所しましたが、現在殆ど空きはなく、定員の百二十五％の枠で稼働している状態です。ここ一～二年の間に青梅近隣に生活介護事業所が新規開所する噂も耳にしますが、卒業生の数に追いついていない現実があります。

三月の卒業後も障害福祉サービス（日中活動）を利用する生徒さんを対象に、本人・家族・学校・行政・受け入れ施設・相談支援事業所が一堂に会して、二月末～三月初めにスムーズな引継ぎを目的に移行支援会議が開かれます。四月からのサービス等利用計画の見直しを予め行い、情報の共有を図ります。相談支援事業所は、四月以降も本人や受け入れ施設と連携しながら安心してサービスが利用できるように関わっていきます。

二・ヘルパーさんが足りない

居宅介護（家事援助・身体介護）や重度訪問介護などを行う事業所のヘルパーさんが減っています。結果として年齢の高いヘルパーさんが増える状況になります。高齢者施設や障害者施設などでも人材が集まりにくくなっていることと共通かも知れません。

ヘルパーさんが退職すると重度訪問介護のヘルパーさんの補充ができず、「派遣できないので撤退します」という事業所がいくつもありました。難しいケースの場合は尚更で、新しい事業所を探すのは至難の業です。相談支援事業所がどこまで介在するかは難しい所ですが、本人の障害が重く調整困難な身体障害者や軽度の知的障害者で事業所と頻繁にトラブルを起こしてしまう場合などは、介入しなければ生活が成り立たなくなってしまうため、関わらざるを得ない状況があります。

（成人部副施設長　尾澤栄子）

青梅市障害者就労支援センター

登録者交流会でカラオケ大会

十二月十一日（日）に十五回登録者交流会が、カラオケ店「まねきねこ青梅新町店」にて開催されました。

交流会は、働いていてなかなか会えない働く仲間と交流を深め、仕事の相談をしたり、お互いを励ます場となっております。今回は登録者二十七人という大勢の方が参加されました。

登録者交流会は例年、夏に「カラオケ大会」、冬に「クリスマス会」を行ってきましたが、参加者の方から「ボーリングがしたい！」との希望が多く、夏に初めて「西東京レーン」にてボーリング大会を行いました。そして今回は、交流会検討段階の時に身体に障害をお持ちの方から、「カラオケ店でバリアフリーのお店がある。今回の会場は『まねきねこ青梅新町店』でお願いしたい」との要望があり、入り口に段差が無くトイレが広々とした「まねきねこ青梅新町店」に店舗を変更して、行われました。

スタッフ五名とボランティアで参加していただいた青梅市障がい者福祉課の木村課長、中村係長が分れて部屋担当をもち、六部屋がそれぞれ個性的なカラーが出ていました。

歌のジャンルは洋楽、イタリア曲、歌謡曲、アニメソングや戦隊シリーズなどさまざまで、懐かしい曲から最新曲までと幅広く歌われていました。カラオケの最中に、曲に合わせて振を付ける方、タンバリンやマラカスを鳴らし音頭を取る方、部屋の外にまで声が漏れる程、熱狂的に歌われている方もおり、室温を下げる必要があるほどでした。

各部屋には自然とリーダー的存在になる方がおり、歌う順番を決めてくださったり、「残り時間あと五分だけど、皆で何を歌う？」と選曲してくださる方がおり、さすが働いている方は違うな…と思わず感心してしまいました。

ドリンクバーとアイスの食べ放題の他、会費の中からセンターが用意したお菓子を食べながら二時間半があっという間に過ぎてしまいました。

次年度の交流会の内容は、未定ですが、皆様が楽しめるような企画を立てていきたいと思います。

（副主任　橋本文恵）

児童部

クリスマスプレゼント

児童部の年中行事のひとつ、クリスマス会を十二月二十五日（日）に開催しました。毎年、事前に子ども達が「利用者の集い（利用者会議）」を開き、当日の出し物や司会者などを決めて行われます。今年もダンスや楽器演奏を集まった保護者や職員、ボランティアの方々に披露をして盛り上がりました。

子ども達のクリスマスといえば何と言ってもプレゼントです。クリスマス会では、事前にサンタさんにお願いをしていたプレゼントをひとりひとり、サンタクロースから手渡されました。

そして、クリスマス直前の十二月十六日には、これまで子ども達と関係をもって下さっているバンドユニットSTEALTH（ステルス）より、昨年五月に行われたライヴのＤＶＤが届けられました。（経緯詳細については、広報誌vol 22号で記しています。）昨年においては、児童部の一大イベントこそが入所児童及び職員全員、保護者と行ったこのライヴへの招待鑑賞でした。子ども達も自分達が実際に見たライヴが映像化されることをずっと待っていたので、最高のプレゼントとなりました。さらに、ＤＶＤに付いているブックレットに自分たちの名前が刻まれていることで、さらに嬉しさはひとしおでした。時を同じくして、全国のバンドユニットのファンの方々が、子ども達宛に沢山のお菓子を送ってくださいました。ていねいにクリスマスラッピングを施してくれている物、メッセージカードを付けていただいている物など、一つひとつ子ども達のために手をかけてくださり、本当に気持ちがこもっているありがたい贈り物です。

全国から届いたお菓子

団体様から頂いたおもちゃ

また、例年のように一般社団法人東京馬主協会様をはじめとして、企業様などからも子ども達へと「おもちゃ」や「食べ物」などが届いています。

特に昨年度は、障害者（児）施設においては、おぞましい事件やニュースが大変多く出された年でもありました。そんな中にあって、このように届けられる贈り物は、保護者や職員だけではく、たくさんの人々にここで暮らす子ども達が見守られているという安心感や勇気づけにほかならない証拠だと思っています。本当に感謝いたします。

（副施設長　石川　淳）

グループホーム

一月四日（水）の仕事始めの日に、「すてっぷ小中尾」のＫさんが、作業所から皆勤賞の賞状をもらってきて大変喜んでいました。うれしくて母親に電話して、賞状を壁に貼りました。「フォレスタ」のＳさんとＭさんも皆勤賞をもらいました。「ハウス小嶺」のＹさんは、高校を卒業してから働いている会社から勤続二十年の表彰を受けて金一封をいただきました。「とも」のＨさんは、以前の広報誌でも紹介されましたが、仕事ぶりが認められて、推薦されて社長さんから直接、推奨状と記念品をいただきました。仕事を評価され認められたことは、うれしいことでもあり、自信につながったと思います。

職場の鍵を落として職場に報告しなかったことを厳重に注意されたＦさんは、毎日「鍵返したよ」と伝えています。作業所へ通所している方々は帰宅するといつも「仕事がんばったよ」と言っています。

「一般就労」「就労継続支援Ａ型・Ｂ型」「生活介護」と、制度上の働き方はさまざまですが、仕事や活動をそれぞれ頑張っています。働くことによって、社会的なつながりを得て、内面的にも充実して、希望する余暇を過ごせるような生活を実現していくように願っています。

（主任　斉藤えり子）

青梅福祉作業所

通うこと通えることの幸福

一月四日（水）に新年懇親会を開催しました。成人式を迎える方がいれば、お祝いするのですが、今年は該当者がいなかったので、昨年の一月から十一月の期間に各作業班で最も多く通所した十一名の方たちを表彰しました。その中には、二十歳代の若手もいるのですが、六十歳代以上の方が多かったのが印象的でした。

通う日が多いということが、幸せなのかというと必ずしもそうではないこともあるでしょう。逆の見方をすると休む用事が少ないともとらえられるからです。複数日にわたる旅行など、レジャーの質は三十年前とは大きく変わっています。

そういうことはあるのでしょうが、それ以上に力が抜けて、淡々と毎日通い、作業をして、どこか誇らしげでいる方たちが素敵だなと感じるのです。

国は平成三十年度からの法改正で、どうしても介護保険を組み込みたいようです。

高齢者福祉では毎日元気に通えて作業ができる人たちに向けたサービスはありません。

「通うこと、通えることの幸福」を福祉制度の法理念や仕組みの解釈で奪われたくないという思いが強くなった新年でした。

（所長　福田和弘）

はぁとぴあ原宿

児童発達支援

サンタクロースがやってきました

十二月と言えばクリスマス、はぁとぴあキッズ、代々木の杜ピア・キッズでそれぞれクリスマス会を開催しました。子ども達はサンタの衣装を着て歌ったり、踊ったり、演奏を聴いたりと楽しい時間を過ごしました。最後には、本物（!?）のサンタクロースも登場し、プレゼントを貰って大喜びでした。

日中一時支援

冬休みの日中一時支援は、年末年始をはさみ、六日間でしたが、穏やかな天気にも恵まれたので、近所の神社へ初詣に出かけたり、北の丸公園にある科学技術館に行ったりと、外出を楽しみました。代々木の杜ピア・キッズの上の体育館では、成人の「歩工房」の活動に参加させて貰い、ちょっぴり大人の気分も味わいました。

（副所長　平井眞琴）

施設入所・生活介護

クリスマス会を開催しました

ユニットのクリスマス会を、十二月十八日（月）夕食時、日中活動クリスマス会を十二月二十二日（金）午後に、それぞれ食堂で行いました。ユニットのクリスマス会は、ご馳走を食べた後に、ビンゴ大会、日中活動のクリスマス会は、音楽会を行い、楽しい一時を過ごしました。

表彰されました

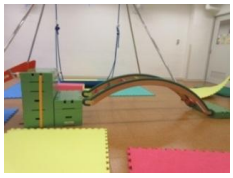
渋谷区障害者記念週間区長表彰が、十二月三日（土）に、ケアコミュニティー・美竹の丘多目的ホールで開催され、自立生活者部門において、はぁとぴあ原宿の入所利用者二名、写真右から木南方代子様と山﨑加重子様が、長谷部健渋谷区長（写真中央）から、表彰されました。おめでとうございます。

寄贈品をいただきました

公益社団法人東京都宅地建物取引業協会渋谷支部から、成人日中活動に『手織機』を、代々木の杜ピア・キッズには、『丸型はしご』を寄贈していただきました。

また、日産化学工業株式会社から、はぁとぴあキッズに『エアポリンフラット』と『スナッププロジェクターセット』を寄贈していただきました。創作活動やこどもの療育において大切に使わせていただきます。

ありがとうございました。



（副所長　渡部光行）

トピックス

防犯講習会

相模原の障害者支援施設での事件後、防犯意識が高まり、当法人においても設備の見直しや防犯カメラの設置など行いました。また、その一環として、この度、十一月七日（月）青梅警察署防犯課を始め、近隣成木地区の駐在所の方にお願いをして、職員向けの防犯講習を行いました。

警察官の方が犯人役に扮してのデモンストレーションでは、演技ながら実際に事が起きた状況で、職員は、どう動けるのか、何が出来るのかを考えさせられる貴重な時間となりました。最後には、サスマタや防犯グッズの紹介と実際に手に取る機会も設けて頂きました。実際に起きてはならない事態とはいえ、今後の防犯意識を高める意味でも大切な時間となりました。

はぁとぴあ作品展

第七回はぁとぴあ作品展『プリズム展』を三月三日（金）～六日（月）渋谷区文化総合センター大和田二階『ギャラリー大和田』において開催しました。

理事会・評議員会の開催

理事会・評議員会が一月二十八日（土）午後一時より、成人部多目的ホールにて開催されました。平成二十八年度第二次補正予算を始め、運営協議会設置に伴う運営規程の制定など多岐に亘っての審議が行われました。

中堅職員研修

平成二十八年度の法人階層別研修として、各事業所における中堅クラスの職員による中堅職員研修を十一月二十五日（金）午後一時より、はぁとぴあ原宿にて行いました。当法人のここ近年においては職員の世代交代が進み、多くの若い世代が指導職として活躍をしています。職員総体の支援力の底上げを図り、中核を担う人材の育成が狙いです。最初に児童部施設長より「障害児者制度の流れ」等の講義があり、後半部分ではテーマを「認め合い・高め合い・助け合い、そして自己発見」というタイトルでのグループワークによる演習が行われました。

法人研修

十二月二日（金）、成人部多目的ホールにて、友愛学園関連事業所職員を対象とした法人研修が行われました。これまでも継続的に虐待防止・権利擁護の視点から実施してきましたが、今年度の実施にあたり、神奈川県で起きた障害者施設での事件を通して、「障害者が安全に安心して生きること、暮らすこと、働くこと、命の大切さなど、福祉を支える側から、どう考えたら良いのかを研修しました。

【訃報】
友愛学園草創期よりご尽力いただきました元副施設長　釼持輝子様（享年九十六歳）が二月六日にご逝去されました。ご冥福をお祈りし、慎んでお知らせいたします。

編集後記

やまゆり園の再建に向けて、さまざまな意見が寄せられ、神奈川県は検討部会をつくった。いろいろな立場もあるし、何よりも利用者自身の思いを大切にしてもらいたいと思う。

それを前提としながらも、知的障害のある方たちの地域生活に関して、複数の全国紙が取り上げていることは感慨深い。各地にある建設反対運動についても記事なっている。

亡くなられた方たちの無念とその存在の証を未来につなげたいと思う。

法人事業一覧

青梅エリア

児童部
- 障害児入所支援
- 短期入所

とことこ
- 放課後等デイサービス

成人部
- 施設入所支援
- 生活介護
- 短期入所

おおぞら
- 指定一般相談支援
- 指定特定相談支援
- 障害児相談支援

◆すてっぷ小中尾
◆「とも」
- 障害者グループホーム

青梅福祉作業所
- 就労継続支援B型
- 就労移行支援
- 自立訓練（生活訓練）

青梅市障害者就労支援センター
青梅市受託事業

渋谷エリア

はぁとぴあ原宿
渋谷区受託事業
- 施設入所支援
- 生活介護
- 短期入所
- 児童発達支援
- 日中一時支援

ピア・代々木の杜・キッズ
渋谷区障害者福祉センター
渋谷区受託事業
- 児童発達支援
- 放課後等デイサービス